

深谷市子ども読書活動推進計画 読書活動アンケート結果報告書 (平成26年度)

公立保育園および幼稚園に通う児童の保護者に
対するアンケート編



平成27年3月
深谷市立図書館

目次

I	幼稚園児および保育園児の保護者に対する読書活動アンケートの結果	1
1	アンケート実施の概要	1
2	アンケート協力機関	1
3	アンケート回答者の子どもとの間柄、および年齢層	2
4	アンケート結果.....	2
II	アンケート結果の概観.....	8
	参考資料.....	10

I 幼稚園児および保育園児の保護者に対する読書活動アンケートの結果

1 アンケート実施の概要

「深谷市子ども読書活動推進計画」推進のため、市内公立幼稚園および保育園の保護者を対象に読書活動に対するアンケート調査を実施した。調査期間は平成26年10月～11月（各園における調査票回収期間を含む）である。

2 アンケート協力機関

今回のアンケート調査については深谷市子ども読書活動推進計画協議会における検討を経て、下記機関を通じ、それぞれの園児の保護者より回答を得た。

○保育園：明戸保育園、みらい幼稚園おかべ

○幼稚園：深谷幼稚園、花園幼稚園

回答者総数は248名である。無回答件数を除外したため、設問によっては回答件数が回答者総数または該当者数を下回る場合がある。複数回答を認めている設問の場合には、回答件数が回答者総数を上回る場合がある。

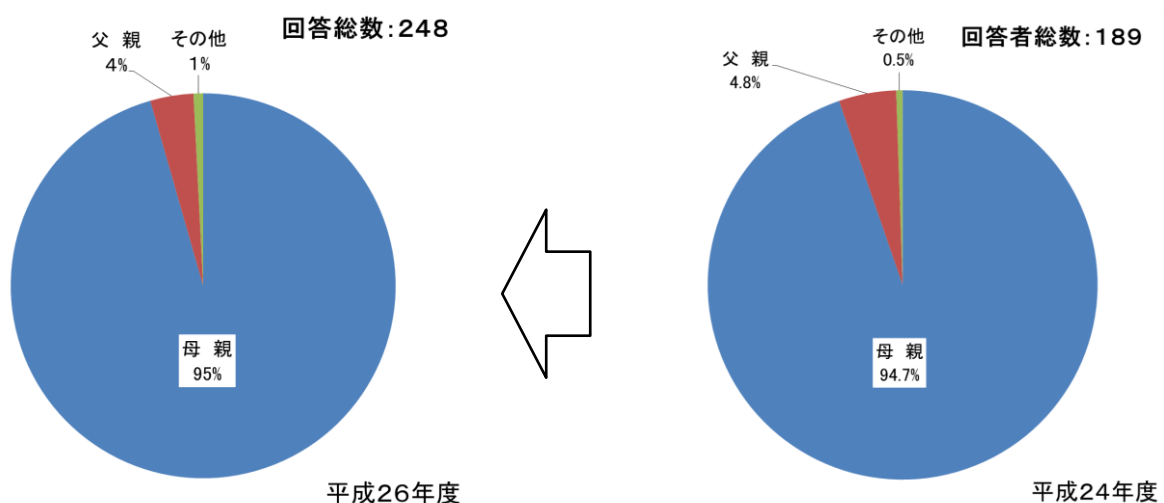
今回は比較のため、平成24年度実施アンケートの結果についても掲載する。回答件数の取り扱いについては平成26年度と同様である。

本文中におけるグラフ項目の表記には平成26年度の選択肢に則り、「キーワード（グラフの表示色）」を用いる。平成24・25年度の同様の設問に対する選択肢と文言が異なるものについては、グラフ内ではそのまま用いているが、本文中では平成26年度表記に統一する。

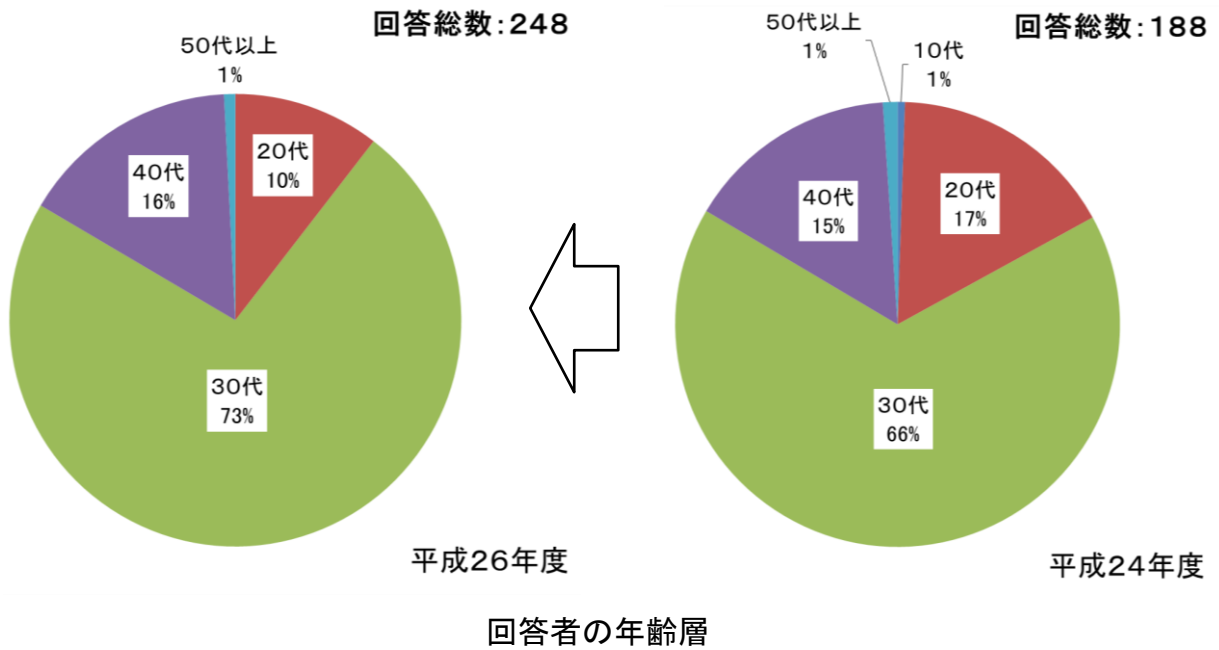
グラフにおいては表示空間に制限があるため、キーワードはアンケート内に設定した選択肢との同定可能な程度まで記述を省略する場合がある。

3 アンケート回答者の子どもとの間柄、および年齢層

回答者の内訳は以下のとおりである。



回答者と子どもの間柄



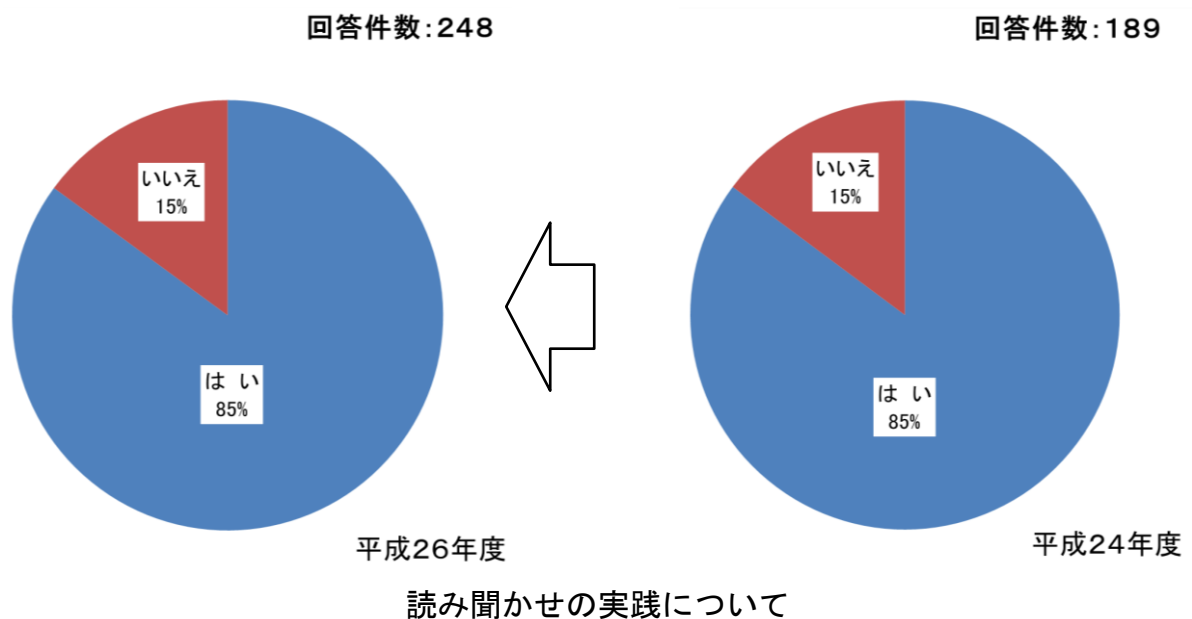
両年度の調査対象となった園数および回答者数が異なるため、実数を用いた比較こそできないものの、回答者の比率的な内訳について比較すると、両者の様相は非常に近似している。年齢層の比率においても、20代と30代の割合が変化し、やや高齢化の傾向があるものの、その合計は両年度とも同数である。これらを考え合わせ、回答比率の変動の観点においては、比較対照が可能であると判断した。

以上の観点から、読み聞かせに対する保護者の行動や意識の変動について概観することとしたい。

4 アンケート結果

以下にアンケート結果を掲載する。回答は全て件数扱いとし、グラフ右上に掲示する。また、無回答を除き、複数回答は累積数を回答数として扱うものとする。

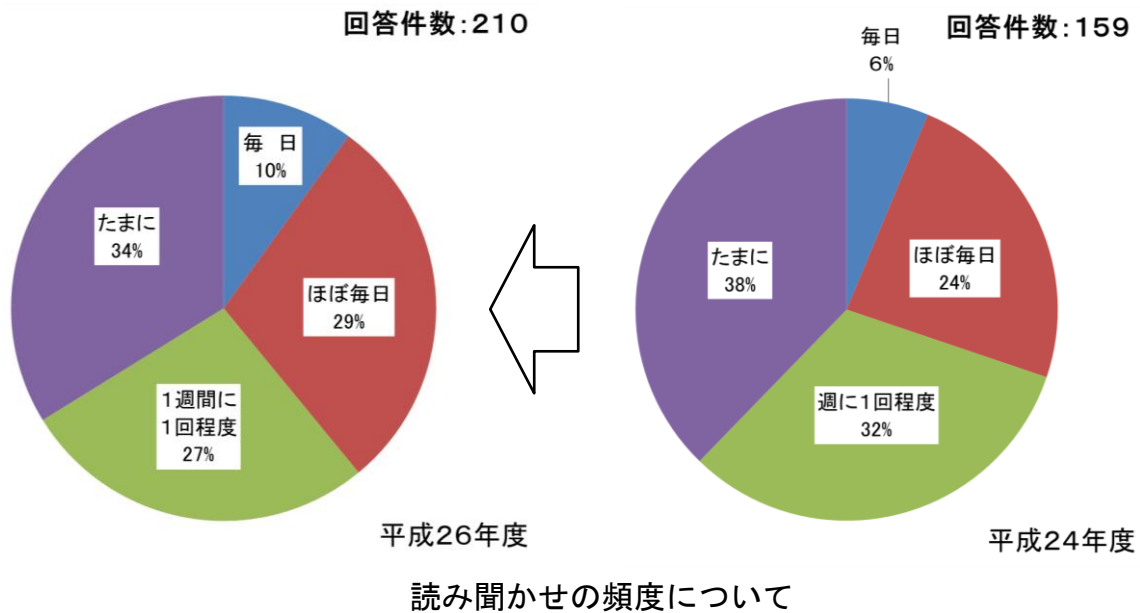
問1 子どもたちに本の読み聞かせをしていますか？



いずれも85%の保護者が読み聞かせを行っており、比率的には安定状態を保っている。

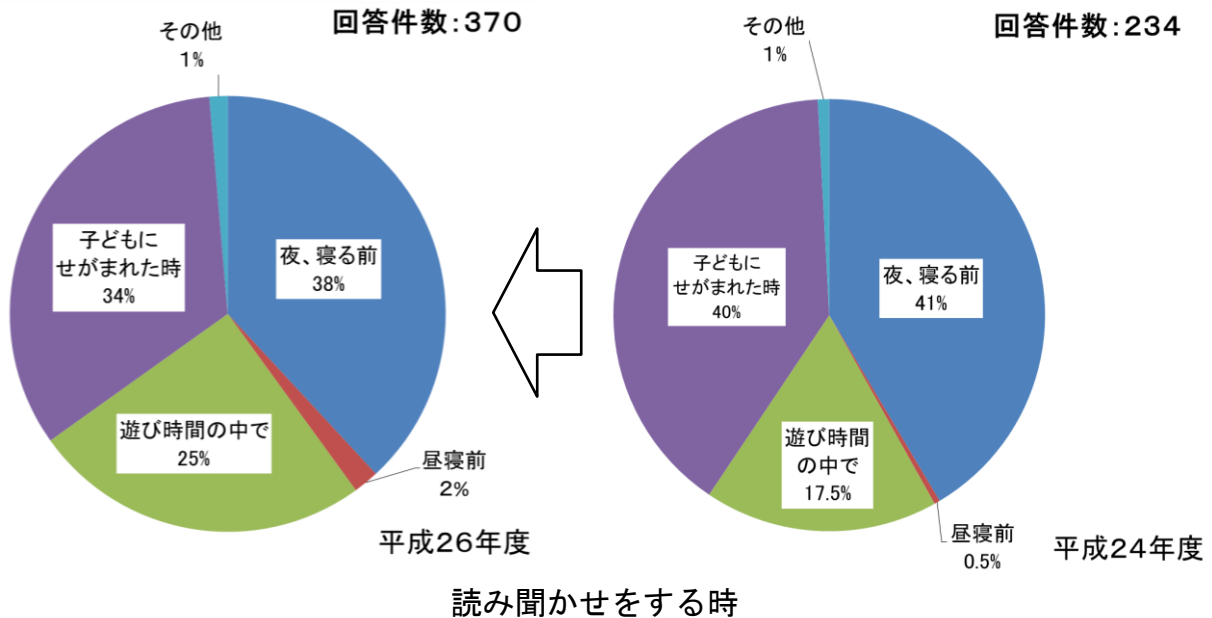
質問2 問1で「はい」と答えた方にお尋ねします。

(1) 読み聞かせの頻度を教えてください。



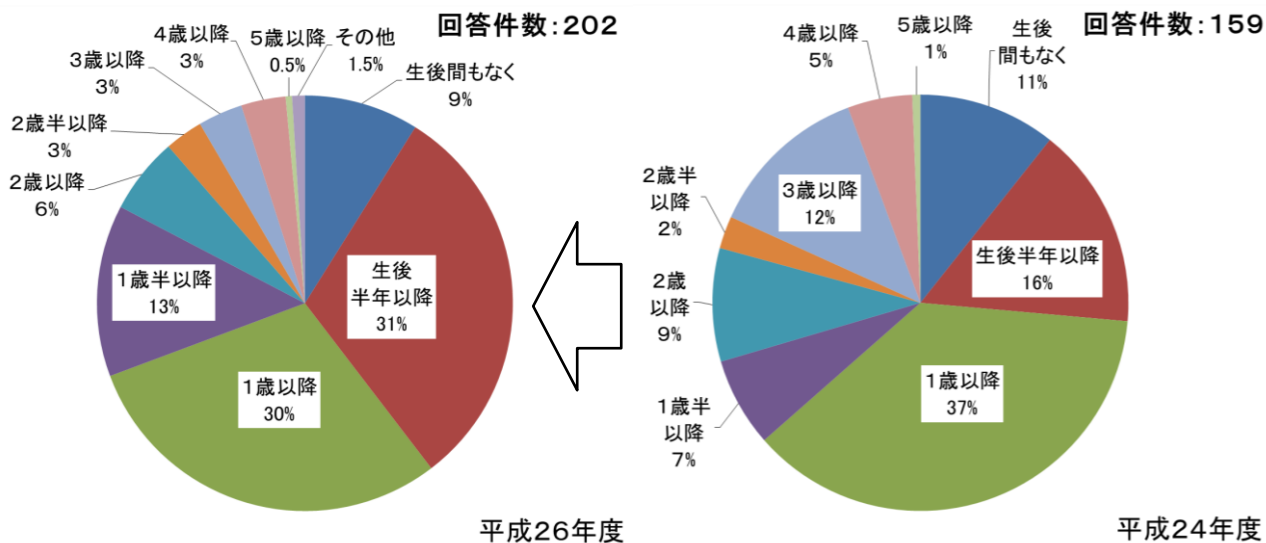
平成24年度と比べて「毎日 (青)」「ほぼ毎日 (赤)」の回答が増加している。

(2) 読み聞かせをする時を教えてください (複数回答可)。



全体的な様相こそあまり変化していないが、「遊び時間の中で (緑)」読み聞かせをするという回答が増加する一方、「子どもにせがまれた時 (紫)」に読み聞かせをするという回答が減少している。

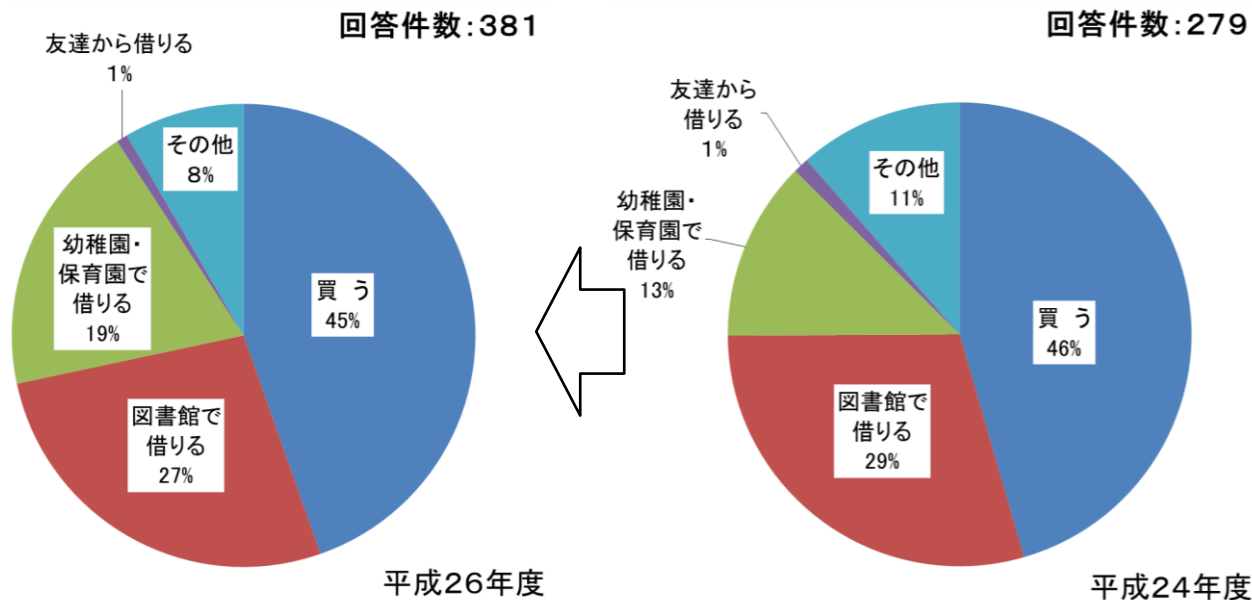
(3) 読み聞かせを始めた時期は何時ですか？



読み聞かせの開始時期

「生後半年以降 (赤)」「1歳以降 (緑)」「1歳半以降 (紫)」の回答が増加し、特に「生後半年以降 (赤)」とする回答はほぼ倍増している。

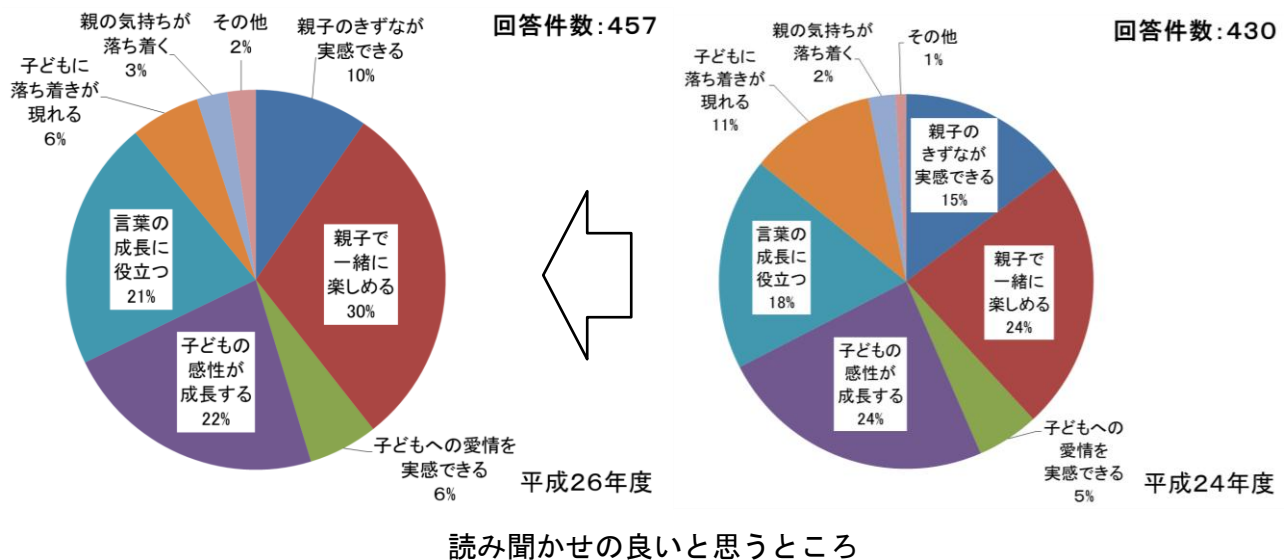
(4) 読み聞かせに使う本の入手方法を教えてください (複数回答可)。



読み聞かせに使う本の入手方法

「買う(青)」が全体の45%以上、「図書館で借りる(赤)」が全体の30%近くを占める様相にはほとんど変化がないものの、両者の減少分を吸い込むようにして、幼稚園・保育園で本を借りるとする回答が増加している。

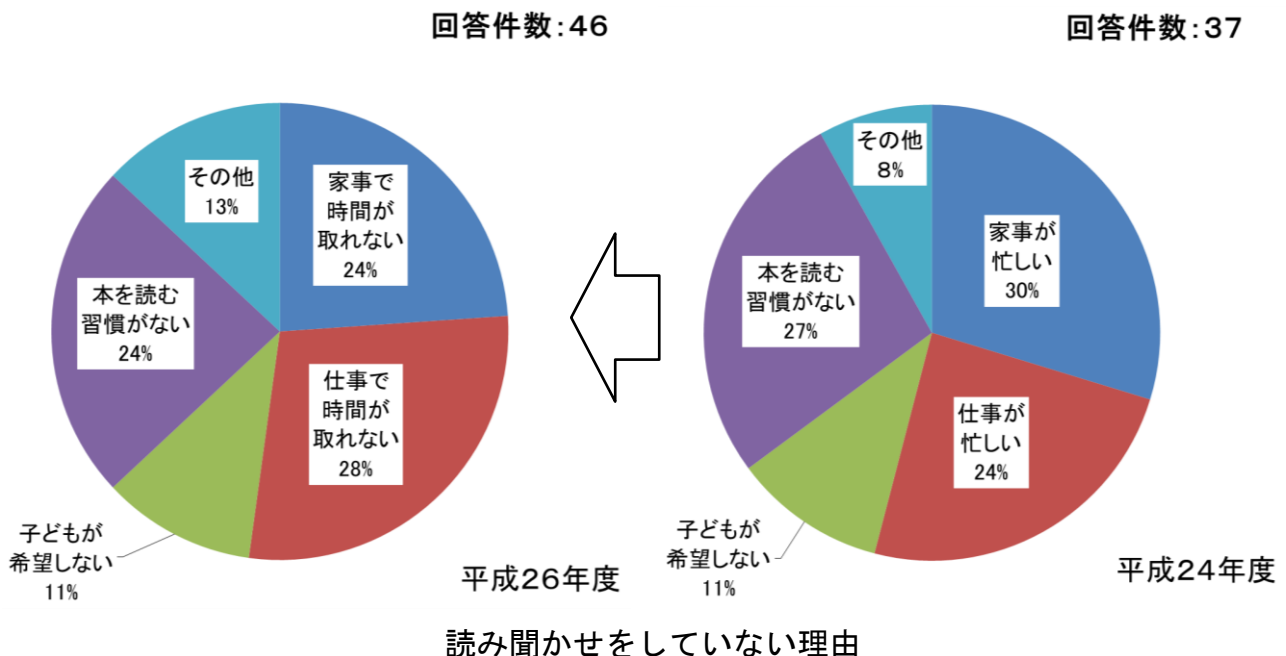
(5) 読み聞かせをしてよかったこと、良いと思うことを教えてください(複数回答可)。



「子どもの感性が成長する(紫)」「子どもの言葉の成長に役立つ(青)」とする回答はそれぞれ全体の2割前後を占めている。平成26年度回答において「親子で一緒に楽しめる」とする回答の増加が認められる。

問3 問1で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。

(1) 読み聞かせをしない、しなくなった理由を教えてください(複数回答可)。



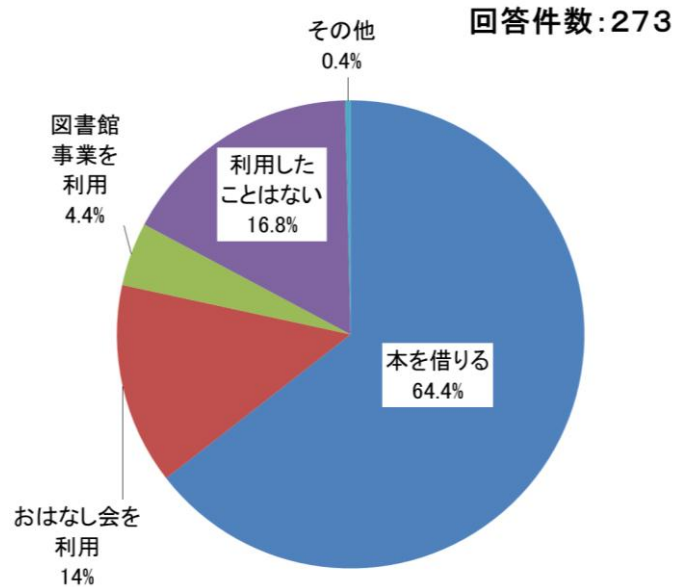
「家事(青)」や「仕事(赤)」をその理由とする回答が全体の5割以上を占める様相は変わらないが、比率的に「仕事(赤)」を理由とする回答が「家事(青)」のそれを逆転している。

「子どもが希望しない(緑)」「本を読む習慣がない(紫)」とする回答が全体の1/3以上を占めている。

以下の問いは、市立図書館の利用状況についての設問で、平成26年度調査時に新たに設定したものである。

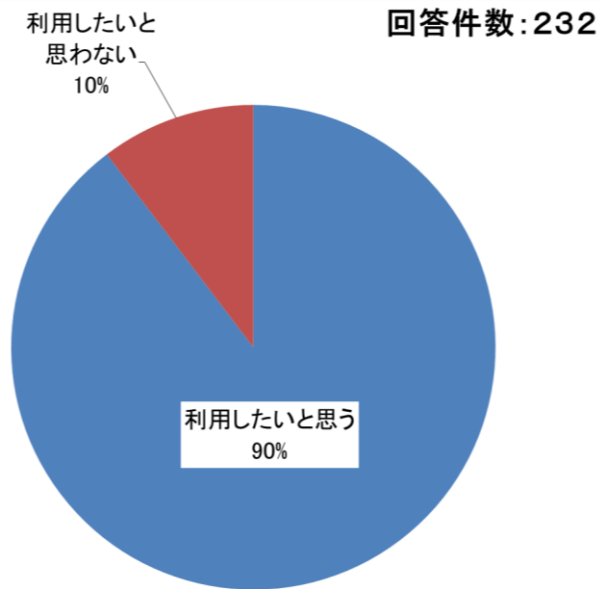
問4 図書館の利用についてお尋ねします。

(1) 図書館を利用したことがありますか(複数回答可)。



市立図書館の利用経験

(2) 図書館を利用したいと思いませんか。



市立図書館利用の意思

回答者の80%超が市立図書館を利用した経験があり、これを含む90%の回答者が利用の意思を持っている。

ここで平成24年度の調査結果を掲げておきたい。

平成24年度調査の際には、

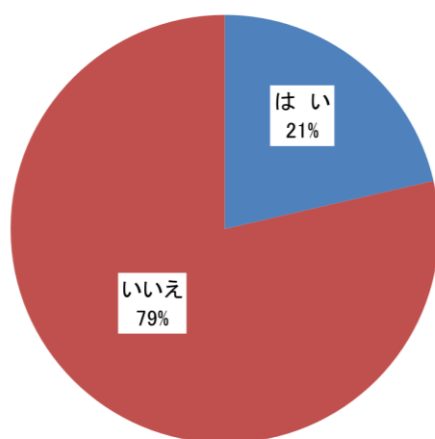
○市立図書館主催事業である「おはなし会」への参加経験の有無、

○自分のための図書館利用の有無

の2点について設問している。本設問の選択肢をより具体的に見直したのが平成26年度設問だが、両者は厳密には連続していないので、参考資料としてご覧いただきたい。

問5 図書館のおはなし会に参加したことがありますか。

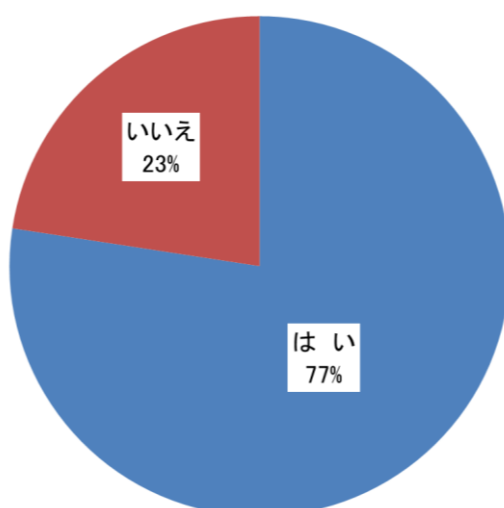
回答件数:187



図書館主催事業である「おはなし会」への参加経験

問6 自分のために図書館を利用したことがありますか。

回答件数:186



保護者個人としての市立図書館利用経験

Ⅱ アンケート結果の概観

ここでは、アンケート結果について各設問の順に、平成24年度の実施結果との比較の観点から概観する。

問1、読み聞かせの実施の有無については、回答者の85%がわが子に読み聞かせを行っており、読み聞かせの実施が保護者に定着している様子がわかる。読み聞かせの頻度も平成24年度と比べて「毎日している」「ほぼ毎日している」の回答の占める割合が増加し、読み聞かせの質実が充実してきている傾向が看取できる。

問2の(1)、読み聞かせをする時については、「遊び時間の中で読み聞かせをする」という回答が増加する一方、「子どもにせがまれた時に読み聞かせをする」という回答が減少している。保護者から、子供が望んだ時に読み聞かせができる時間的余裕が失われつつある傾向が伺える。

問2の(2)、読み聞かせを始めた時期については、平成24年度に比べ「生後半年以降」「1歳以降」「1歳半以降」の回答が増加、中でも「生後半年以降」とする回答はほぼ倍増している。読み聞かせの普及に伴い、早い時期からの読み聞かせが抵抗なく受け入れられるようになった結果とも考えられる。

問2の(3)、読み聞かせに使う本の確保手段については、「買う」とする回答が全体の5割弱、「図書館で借りる」とする回答が全体の3割弱を占める様相にはほとんど変化がないものの、平成26年度では両者が若干減少、その減少分を吸い込むようにして、「幼稚園・保育園で本を借りる」とする回答が増加している。園で実施している絵本の貸し出しが保護者に定着した結果と思われる。

問2の(4)、読み聞かせの良い所については、「子どもの感性が成長する」「子どもの言葉の成長に役立つ」とする回答が、それぞれが回答全体の2割前後を占めている。この両者は読み聞かせの効果に対する一般的な理解を代表しているといえるだろう。ここで注目したいのは平成26年度調査結果においては、「親子で一緒に楽しめる」という回答が増加している点である。保護者自身が読み聞かせを受けてきた世代になりつつあることもあり、ことさら構えることなくことなく、読み聞かせをおこなっている様子がわかる。

一方、問3、「読み聞かせをしていない」と回答した保護者にその理由を尋ねたところ、「家事」や「仕事」を理由とする回答が全体の5割以上を占めるという様相こそ変わらなかったものの、平成24年度の回答と比較すると、「仕事」を理由とする回答の比率が「家事」のそれを逆転している。近年の経済状況を考え合わせると、共稼ぎ世帯の増加などという要因も考えねばならないだろう。

気がかりなのは「子どもが希望しない」「本を読む習慣がない」とする回答が全体の1/3以上を占めていることである。本に接する機会が限られてしまう子どもたちが生まれることが現実問題として危惧される。各教育機関が実施している読書推進活動が、子どもたちと本との出会い、読書との出会いにとって重要な意味を持つことが改めて明らかとなった。

次に視点を変え、保護者自身の市立図書館との関わり方について尋ねた。

問4の(1)、図書館の利用経験については、回答者の6割強が図書借用の利用経験があり、更に2割弱ながら事業参加の経験があるとの回答を得た。回答者全体の8割が何らかの形で市立図書館を利用したことがあるという結果となった。

問4の(2)、今後の図書館利用の意思の問いに対しては、実に全体の9割の回答者が利用の意思を持っているという結果が示された。

参考として最後に掲げた平成24年度設問（問5、問6）の回答結果をみても、単純に比較することには問題があるものの、問4（1）（2）のその様相と大きく異なるものではないことは首肯できるものと思われる。

この回答結果は、現在まで利用したことがないものの、利用に前向きな保育園および幼稚園児の保護者が存在することを明らかにしたものである。これまで、図書館事業に関する広報活動は主に一般市民向けに行ってきたが、保育園・幼稚園、更には小学校低学年の子どもたちを持つ保護者を意識した広報活動の必要性を示唆するものと言えるだろう。

アンケートの結果、わが子への本の読み聞かせについて積極的に関わる保護者が安定して高率を占め、時間的制約に迫られながらも充実した読み聞かせを行っている姿が明らかとなった。

一方、家庭的、経済的事情から読み聞かせができないケースや、家庭として読書習慣を持たないケースも一定数存在するなど、子どもたちの読書を取り巻く環境が両極化する傾向が明らかとなった。

(3) 読み聞かせを始めた時期を教えてください。

10. その他 に○をした方は、なるべく具体的に教えてください。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 生後間もなく | 2. 生後半年以降 | 3. 1歳以降 |
| 4. 1歳半以降 | 5. 2歳以降 | 6. 2歳半以降 |
| 7. 3歳以降 | 8. 4歳以降 | 9. 5歳以降 |
| 10. その他 (| |) |

(4) 読み聞かせに使う本の入手方法を教えてください(いくつでも)。

5. その他 に○をした方は、なるべく具体的に教えてください。

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. 買う | 2. 図書館で借りる | 3. 幼稚園・保育園で借りる |
| 4. 友達から借りる | 5. その他 (|) |

(5) 読み聞かせをしてよかったこと、良いと思うことを教えてください。

8. その他 に○をした方は、なるべく具体的に教えてください。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 親子のきずなが実感できる | 2. 親子で一緒に楽しめる |
| 3. 子どもへの愛情を実感できる | 4. 子どもの感性が成長する |
| 5. 子どもの言葉の成長に役立つ | 6. 子どもに落ち着きが現れる |
| 7. 親の気持ちが落ち着く | |
| 8. その他 (|) |

問5 問3で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。

読み聞かせをしない、しなくなった理由を教えてください。

5. その他 に○をした方は、なるべく具体的に教えてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 家事が忙しく、時間が取れない | 2. 仕事が忙しく、時間が取れない |
| 3. 子どもが希望しない | 4. 本を読む習慣がない |
| 5. その他 (|) |

問6 図書館の利用についてお尋ねします。

(1) 図書館を利用したことがありますか？

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 本を借りるために利用したことがある | 2. おはなし会を子どもと一緒に利用したことがある |
| 3. 自分が図書館事業を利用したことがある | 4. 利用したことはない |

問7 図書館を利用したいと思いませんか。またどのようなことで利用したいと思いませんか。

具体的な要望があればご記入ください。

- | | |
|----------------|---|
| 1. 利用したいと思う (|) |
| 2. 利用したいとは思わない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
深谷市立図書館

使用したアンケート書式(裏)